

材木を担ぎながら 其の八  
茶道はじめの一步(古希の手習い) 第二回  
—抹茶茶碗の見方—

きよ ほうへん  
清 方扁

茶道具で最初に頭に浮ぶのは茶碗ですが、これがまた多種多様でどこから手を付けたらいいのか悩みどころです。この奥の深い茶碗という美術品を茶道初心者の私がこれから解説しようというんですから噴飯ものです。

美術品の解説といえば10年ほど前にこの月報に連載された名倉敬世氏(愛三木材会長)の日本刀の名エッセイが思い出されます。名倉氏の見識と独特な洒脱な文体には及びもつきませんがお付き合いください。

抹茶茶碗を大別すると**唐物**、**高麗物**、**和物**(この他に南蛮物を入れるときがあります)の三種類に分けられます。これを分かり易くするために無理にこじつけて、戦後の自動車の変遷に譬えながらお話ししましょう。

**唐物** 戦後の人気の高級車といえはキャデラックやフォードに代表される米国車(アメ車)でした。これと同じように室町時代に喫茶の風習が上流階級に流行すると茶碗も舶来(中国の宋時代)の天目茶碗が珍重され、権威の象徴の役割を果たしました。その意匠は華麗で現在五椀が国宝にされておりますので幾つかを掲載してみました。



①曜変天目茶碗



②玳瑁(たいひ)天目茶碗

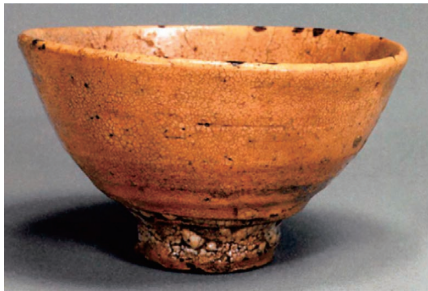


③油滴天目茶碗



④牡丹天目茶碗

**高麗茶碗** 高麗(朝鮮半島)茶碗は朝鮮王朝の日常食器が16世紀中頃、日本で茶の湯の美学に合う茶碗と「見立て」られたもので、自動車に譬えれば年代物のクラシックカーと同じような気がします。それも50年も前のカローラ、サニー、コルト、ベレットといった当時の大衆車が今やビンテージカーとしてマニアの間で人気になったようなイメージとと思ってください。これと同じような現象が桃山時代に大流行、その中でも「井戸茶碗」と名付けられた高麗茶碗は天下一の名声を得ました。さらに江戸時代を通して茶人が好みの茶碗を朝鮮に注文するようになり様々な種類の高麗茶碗が作られました。現存する高麗茶碗の国宝は一点だけです。



⑤大井戸茶碗 銘「喜左衛門」



⑥大井戸茶碗 銘「毛利」

**和製茶碗(和物)** 戦後高級自動車といえば外国車一辺倒だった時代から昭和40年代になると外車にひけを取らない安価で優秀な国産車が出来てきました。これと同じように有名な茶の湯の大成者千利休が日本独自の創作茶道具を提唱しました。茶杓、蓋置、花入れなどで今まで使われていなかった竹を使用したりして、現代に継承された「わび茶」の基となりました。この利休が茶碗では京都の長次郎に作陶を指導して、今までにない半筒形を基本にした「楽茶碗」を創作、これに刺激を受けて世に「一楽、二萩、三唐津」といわれますが、全国各地で茶碗作りが盛んになり成果を上げました。現在、和物(国焼き)の国宝は二点あります。



⑦志野茶碗 冬木家伝来 銘「卯花塙(うのはながき)」



⑧楽茶碗 長次郎作 銘「清正」

御届届様でした。以上これが抹茶茶碗の簡単な分類です。私の解説はともかく、写真で紹介した国宝や重要文化財の名碗を鑑賞して頂けましたか。でももうちょっとよく見て下さい。この写真のなかには偽物、駄物が幾つか混じっています。既にお分かりになった方は相当な目利きな方です。「開運 何でも鑑定団」の審査員でもなったつもりで何番と何番が偽物か推理して下さい。答えは来月も読んでもらえるように次号で掲載する予定です。